

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800447	事業の開始年月日	平成15年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	株式会社よこはま夢倶楽部		
事業所名	株式会社よこはま夢倶楽部グループホーム夢観		
所在地	(224-0007) 神奈川県横浜市都筑区荏田南3-14-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成25年11月28日	評価結果 市町村受理日	平成26年6月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://center.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境のもとで食事・入浴・排泄等の日常生活の世話及び日常生活の中で行う心身の機能訓練を行っている。敷地内には、ガーデンやコンサートも行えるホールがあり、地域交流として近隣高校の定期演奏会や地域で活動している方々を招いての演奏会など定期的に行っている。日常生活の支援と地域交流を盛んに行い心身ともに健康で生活できる様に支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2丁目10番 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年1月7日	評価機関 評価決定日	平成26年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は東急田園都市線市が尾駅から徒歩15分程度の場所にある。周辺は一戸建て中心の閑静な住宅街である。江田高校に隣り合い、定期演奏会などで生徒と交流がある。 【広い敷地と充実した建物、設備】 広い敷地内に庭園があり、格好の散歩コースとなっている。また、隣接して同法人の多目的ホールがあり、地域住民との交流の場として活用されている。内部も余裕のある造りとなっている。リバティ、ガイア棟は2階建てで、廊下が吹き抜けとなっており、音楽療法や楽器演奏のボランティアが来訪して利用者を楽しませている。その他に和室の多目的室があり、訪れる人との会食などに利用されている。 【認知症専門医との連携】 協力医療機関は事業所の隣にあるメディカルケアコートクリニックである。認知症専門外来を持ち、院長はレビー小体型認知症の専門家である。利用者は、週2回、専門医の往診を受けることができる。今後、職員研修等での連携も検討されている。 【重度化対応】 事業所の方針として、開設時より看取り介護を実施している。家族との面談は少なくとも3ヶ月ごとに行うようにしており、意思疎通を図っている。協力医療機関が隣にあり、緊急時の対応が出来る。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	株式会社よこはま夢倶楽部グループホーム夢観
ユニット名	ガイア棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	株式会社よこはま夢倶楽部グループホーム夢観
ユニット名	リバティ棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	株式会社よこはま夢倶楽部グループホーム夢観
ユニット名	ヴィーナス棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛・心・夢・絆」を理念を掲げている。事務所に掲示をして周知するように努めている。	元からあった「愛・心・夢」に、震災後「絆」を加え、現在の理念となった。事務室に掲示し、ミーティングなどに、サービスの際に常に振り返ることを伝えている。事業所として月間目標（12月：掃除、1月：あいさつなど）を決め、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内に多目的ホールがありボランティアの方がコンサートなどを行い地域との交流の場となっている。自治会の催すイベントに参加し地域交流をしている。	江田南・江田東自治会に加入し、行事参加やボランティア受け入れ等の連携をしている。毎日の散歩時に挨拶を交わしている。隣接する法人の敷地内に多目的ホールがあり、近隣の方に利用してもらっている。近隣の中学や高校と、職業体験、防災訓練参加、ボランティアなどで交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会も催し物に参加、消防訓練などに近隣の方に参加してもらうなど入居者様に接して頂き理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にご入居者様やご家族様に参加して頂き意見を伺っている。定期的に会議を開催できていないので今後は積極的に行う必要がある。	今年度はまだ開催していない。1月中旬に1度、3月に防災訓練と併せて開催する予定である。	運営推進会議を定期的開催し、地域の方や行政、本人・家族等との連携を深めていくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出や施設運営等の不明点などがあれば市担当者に相談・報告をし適切な運営ができるように努めている。	横浜市の介護事業指導課や相談調整課とは、2年前から監査や相談、アドバイスを受けるなど連携している。今後、市のグループホーム連絡会や区の連絡会(分科会)への参加を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に向けて5つの法則」を掲げ職員に周知し理解を促している。玄関は施錠はしていないが危険が高いと考えるベランダへの出入り口は施錠をしている。施錠をしている理由をご入居者様やご家族に説明しご理解頂いている。	身体拘束排除の5つの法則を定め、事務室に掲示している。利用者の権利擁護、意思決定支援、認知症の理解について研修を実施している。ユニット入口の施錠はヴィーナス・リバティー棟は電子ロックがあり、ガイア棟は開錠している。利用者が外に出たいと意思表示した場合は、職員が付き添って外に出て、散策した後で内部に誘導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止について」という冊子を業務マニュアルとし閲覧するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は職員と権利擁護について都度話し合っている。また、権利擁護について職員向けの研修を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際にご理解が得られるまでご説明している。契約時に説明漏れはないかどうかを事がないかをチェックリストで確認しお客様からサインを頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書、重要事項説明書に苦情の窓口を記載して説明している。	介護計画の説明時にその他のサービスや運営などについて意見を聞いている。重要事項説明書変更時の説明会で、人員や料金などについて要望、意見があり、職員の定着や料金体系の明確化に順次対応している。行政経由で意見が寄せられたことがあり、行政と連携して改善に向けて努力している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方法において、職員会議を有効に活用し管理者が意見をまとめ報告している。	ユニットごとに「棟会議」を月1または2回開催している。議題は、事故防止改善案、利用者見守り強化のためのタイムスケジュールの見直し、清掃の役割分担などである。管理者は、職員が自分の意見を言いやすいように、会議ではなるべく意見を控え、見守っている。普段の業務中は、連絡帳などにも意見や提案を書き込んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が取り組みたい事を形にできる様支援している。また職員には年に1回評価を伝え、一年間の目標を設定し定期的な面談で目標達成の支援を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の案内を配信したり、新人にはOJTを中心に必要なスキルを獲得出来る支援をしている。また次世代の管理者の育成の為、実践者研修等積極的に研修に行ける様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社会福祉協議会に会員になり研修会などの参加を職員に促している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	マネージャー、管理者が、入居前面談時に訪問し（または施設見学時）、意見、希望等が聴取しやすい環境を作れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	マネージャー、管理者、計画作成担当者を中心に要望を伺い、入居後の生活の様子など細かく相談し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	マネージャー、管理者、計画作成担当者を中心に必要な支援を選択出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者を人生の先輩として敬い、ときには接遇や気持ちの切り替え方法を教わることもある。日々を楽しく過ごす為、共同生活通じ互いに支えあって喜怒哀楽を共に過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が遊びにしやすい雰囲気企画等を通して作っている。日々様子やご家族の関わり方については面談時などに提案している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	兄弟、親戚、知人等の来所、手紙をいただいている。外出、外食、訪問等を、ご入居者、ご家族に負担のない範囲で計画を立てるなどの支援を行なっている。	友人などの来訪時には多目的室などに案内している。行きつけの美容院に家族と行ったり、誕生日に友人と食事に出かけたりした例がある。以前通っていた教会から知人が来て、共にお祈りをする方もいる。携帯電話を持っている利用者が4人ほどおり、自由にかけられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自己選択・決定を基にグループワーク・音楽療法を活用し、所属欲求を満たすなかで、利用者同士が関わり合い、支え合いが行なえる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等お応えできる事には対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本位の自立支援を達成する為、計画作成担当者を中心に入居後の生活の様子や御家族からの情報を踏まえ検討している。	アセスメントやホームでの生活から、外出や買い物、入浴についての希望や意向を聞き取っている。家族との面談を少なくとも3ヶ月に1回は行っている。意思の疎通が難しい方については、認知症発症前後の様子、生活歴を聞き取って、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味などを含め様々なアセスメントをご入居者やご家族から得ている。可能であれば入居前に自宅を訪問し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックと日々の観察を行っている。提携医療機関にも毎日の様子を伝え状態の変化は介護者だけでなくチームで共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、介護計画の見直しを行っている。見直しの際は日々の生活状態を記録や職員から聴取すると同時に家族にも現状を踏まえた意向を都度伺い適正な計画書の作成を行っている。	ケアプランは、計画作成担当者が職員から意見を聞き取って作成し、家族に説明している。医師の見解は指示書から計画に盛り込んでいる。見直しは原則3か月、状況が変化した場合は随時行っている。モニタリングや計画の評価、入居後の再アセスメントについては記録が確認できなかった。	ケアマネジメントの流れや様式については現在見直し中です。計画に沿ったサービス提供記録と、計画のモニタリング及び評価をする仕組みを作ることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日棟ごとに申し送り表を作成し管理者と提携医療機関、現場で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に合わせ必要な支援を提供出来る様に、歯科や整形外科など協力機関を用意しているが、個別の要望にも対応できる様に準備している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入している。定期的な回覧板での情報収集や、運営推進会議などで地域から得られる情報をもとに、地域資源を活用出来る様に行動している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医などの選択や受診する病院の選択は出来るだけ意向にそって決定している。近隣の病院等必要な情報の提供をしている。	原則として協力医療機関の往診(2週間に1回)を受けている。院長は「レビー小体型認知症研究会」の代表世話人であり日本の代表的研究者である。眼科や皮膚科など他の科目の受診は原則家族対応で、診療情報は口頭で受け協力医に伝達している。必要に応じて職員が付き添う場合もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や訪問看護師来社時に、入居者の状態を報告している。また緊急性が高い場合等は、電話などで随時相談し適切な医療が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境不適応による認知症の進行を防ぐ為、可能な限り短期間での入院で済むよう施設協力病院、提携病院と連携を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナル方針を入居者・家族に説明している。入居者が重度化し看取りを希望していた場合は「ターミナル実施に伴う要望・承諾書」を取り交わし、家族・医師・看護師・職員で最善策を話し合い介護計画を作成している。	開所時から法人の方針として看取り介護を実施している。入居時に、「看取りに関する指針」を説明している。重度化が進んだ場合は医師から家族へ説明があり、看取りを希望する場合は家族の同意を得て実施している。協力医療機関が隣にあり、緊急時の対応が出来る。	重度の方を受け入れ、希望があれば看取りも可能であることが事業所の大きな特徴です。職員研修を定期的に行うことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練を定期的に企画している。また、緊急時の対応方法については入社オリエンテーションで伝える様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は隣接の系列施設と合同で年に2回実施している。	防災訓練は、消防署立会で年2回行っている。前は、利用者26名、職員10名、近隣の高校の生徒6名、教師1名が参加している。今回は3月に夜間想定で行う予定である。災害備蓄は、飲料水と介護用品などの備品は3日分程度を保有しているが、食料品は保有量が少ない。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員態度・言葉遣いに心配りを行い、トイレなどの要労働にも配慮した声かけを行っている。	職員は、利用者の権利擁護研修を受けている。トイレ誘導では、「トイレ」という言葉を使わず、着替えや手洗いなどの理由をつけ誘導している。個人情報を含む書類は、事務室の施錠できるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の自己決定、選択を大切にし、対応可能な限り尊重している。外出企画などや、食事に関する企画などは、希望を取り入れるなどして計画を立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースを尊重している。起床・就寝・食事・入浴・アクティビティーもそれぞれの生活リズムと自己決定を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、化粧品等をご本人が使っていたもの、好む色などをご家族様に準備いただいている。気分転換をかねて、美容院での整容が行なえるよう、調整を行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に職員が会話を楽しみながら食卓に着き、同じ食事を食べている。提携するクリニックの管理栄養士が利用者の希望を聞き献立を作っている。使用する食器は各自好みの物を使用している。利用者は調理・配膳・下膳など出来ることをお手伝いしている。	食材は業者に配達を依頼している。メニューは法人の管理栄養士がチェックしている。朝食時には職員が促し、利用者は盛りつけや配膳を行っている。職員は同席して同じものを食べながら介助をしている。クリスマスや敬老会の行事食、寿司の出前、誕生日会のケーキなどの楽しみがある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提携クリニック管理栄養士が利用者の嗜好を把握し献立を監修、栄養バランスに配慮している。医師と相談し一人ひとりの健康状態に合わせて、食事形態、摂取量の目安を設定し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が入居者の口腔状態をみており、個別の口腔ケアの指導が実地されている。また、寝たきりの方も含め口腔ケアは毎日行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、失禁等が無い様に努めている。また、出来るだけ自力排便が出来る様におむつを使用している方もトイレに座って頂く支援をしている。	基本的には全員トイレでの排泄を目指している。排泄チェックを個別につけ、排泄パターンを把握して誘導している。寝たきりに近い方でもできるだけトイレに座れるように支援している。トイレに排水溝があるので、失敗時は備え付けの温水シャワーを使って処理し、清潔を保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課活動のなかの運動プランや水分摂取管理、便秘時の対応方法が取り決められている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を楽しんでもらう為、入浴剤を用意している。ユニットバスの湯は一人ずつ入れ替え、一般浴のシャワーの他、ミストシャワーも備えている。希望に合わせて入浴を実施している	入浴は原則として週2回としている。利用者の希望や身体状況（皮膚疾患など）により回数を増やすこともあり、1日おきに入っている人もいる。ユニットにより浴室・浴槽の雰囲気を変えている。入浴剤を使ったり音楽をかけて楽しく入ってもらうようにしている。同性介助の希望があるが、一部対応できていない。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて就寝時間を決めている。また眠られるまでの間、TVや音楽、ラジオ等を楽しめる様に配慮したり、不安が強い方には御話し相手をさせて頂く事でよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があった際には全職員に周知するようにしている。服薬の変更時には状態観察を行い、変化があった場合は看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の張り合いある生活を維持するため、一人ひとりの能力、特技を生かして、家事援助等を行って頂いている。趣味活動等を行えるようにも支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添い、外気浴のため、散歩・買い物に出掛けたりしている。花見企画や、夏祭り企画等ご家族や地域と協力しながら行っている。	敷地がとても広く、庭園があり、天気良ければほぼ毎日散歩に出ている。毎日ユニットごとに4~5名は外に出ている。近隣の住宅地や公園まで行く人もいる。車椅子を使用している方も週1~2階は外へ出ている。コンビニエンスストア等へ買い物に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭自己管理している方もいる。施設では管理の制限をしておらず、自己管理している方の買い物時には適切に支払いが出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいる。必要であれば郵便を代わりに投函したりなど、自由にやり取りが行えるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目に優しい配色・照明に配慮し、高級感のある住環境を整えている。リビングにはTV、絵画、写真が飾られている。	リゾート地のような建物で、内部も洒落ている。和室の「多目的室」があり、少人数の会食などに利用できる。バリアフリー構造で、リビングや廊下には手を添えるタイプの手すりがある。正月の獅子舞、干支の置物や絵、凧、熊手などがあり季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを用意しており、テーブル席とソファ席で空間が分かれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた愛着のある家具などの持ち込みを勧めている。入居前の利用者の居住環境や生活動線を参考に、家族と相談して家具の配置に配慮している。	部屋の入口横には小さな飾り窓が設置され、利用者は人形、置物、折り紙など好みの物を飾っている。利用者はベッド・寝具、着慣れた衣服、テレビ、ダンス、家族の写真など馴染みのものが持ち込んで、過ごしやすい空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自己決定、自立支援を基に日々の生活を送って頂く様に支援している。		

目標達成計画

株式会社よこはま夢倶楽部

事業所名

グールホーム夢観

作成日

平成26年5月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議が行われていない	運営推進会議を開催し地域の方、ご家族、ご利用者様との連携を深めていく	定期的な会議開催(年6回) 会議を通じて地域交流を図る	H26.4.1~ H26.12.31 (12ヵ月)
2	10	介護計画に沿ったサービス提供記録と計画のモニタリング及び評価する仕組みが不足している	介護計画に沿ったサービス提供記録と計画のモニタリング及び評価する仕組みの構築	記録用紙の改善及び記録の記載方法のマニュアル作成、研修の実施。 モニタリング用紙の改善	H26.4.1~ H26.9.1 (6ヵ月)
3	12	終末期ケアの研修が充実されていない	終末期ケアにおける職員研修を行う	内部研修に終末期ケアの研修を組み込み ケース検討会議を定期的に開催する	H26.4.1~ H26.12.31 (12ヵ月)
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。